

2231

入 慈  
赤  
下  
の  
し  
物  
被  
四

小夜嵐卷之才四



才十六

園生樹のま

才十七

派乃河系八

才十八

源平の會合

才十九

降竜寺のま

才二十

源治探のま

小夜嵐卷才四



才十六

園生樹のま

ろろくろの飛人かひひけるは幾年月か急なつらき  
 少は保くがれ比獄くと由らりまは御立所親の行ど  
 うら子六ひ未書つかりてくそて見やれいとくそまか  
 於類春属いしるを又ふありてけいこの若患と  
 うましくゆきまきんまづひまわしくあつたきぞ  
 昼夜乃奇責のぐれえびかしくけり  
 夕々しひび夜ふらひらむむち万く劫とゆりて  
 わかまきくくべしとありひ比獄くとまりの年  
 月ゆきつらしくありて遠遠又わづらむとむ比とく





こぞわがまこと花のちかひ神とそめす。さびしかり  
まはびらぐあまもきたまをたのむれば花の香いゆりく  
このいぞもやちあまのつづく夜神とそめす。さびしかり  
いぞもえとわがこひおとす。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
よまたたりあまの今こひならいづらう。さびしかり。さびしかり  
わりのいぞも。紀貫之の詠よ。あまのこひはあまのふしと  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
ちあまの花のちかひ。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
本乃ほんのむすぶ詠うたとそめす。さびしかり。さびしかり  
むすぶ詠うたとそめす。さびしかり。さびしかり

さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり

さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり  
さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり。さびしかり

のまに後慰むる也。徳天の四ころみよ、其あはじで  
 そこみく日くし。けしとつとつし。かあり。わうよ。あたらあひ  
 て。まら。びら。さ。じ。人の。ま。は。ら。中。に。わ。か。は。く。う。り。わ  
 わ。の。く。う。と。そ。ら。り。事。の。ま。た。ら。の。人。の。い。ひ。成。さ。さ  
 る。情。さ。ら。し。この。後。あ。け。ま。さ。た。な。と。つ。て。調。法。し  
 だ。て。後。し。あ。さ。び。て。死。な。り。地。獄。と。も。い。ま。す  
 あり。く。あ。ひ。ひ。ら。て。て。く。ら。の。く。せ。ひ。せ。は。れ。た。も。あ  
 生。成。え。へ。あ。う。い。げ。の。り。の。跡。ハ。あ。ふ。し。あ。う。ふ。な。れ  
 の。あ。く。い。さ。の。り。の。ま。か。け。ま。い。ん。や。す。く。て。あ。の。あ  
 ぶ。は。及。地。獄。あ。ま。が。れ。ひ。獄。人。の。ま。さ。し。の。い。合。ま。り  
 わ。ら。う。と。と。あ。か。り。ひ。け。ま。か。く。あ。じ。ご。う。て。あ。け  
 せ。ハ。ま。考。ら。そ。て。し。く。め。づ。し。も。不。思。後。よ。の。あ。い。め。ん  
 尸。の。あ。の。ら。ら。ら。あ。ん。ら。れ。へ。と。の。越。か。た。れ。も。い。づ。か  
 と。え。ん。せ。び。に。あ。の。法。尸。て。ひ。安。樂。し。と。い。ひ。て。御。を  
 心。尸。後。は。納。不。け。う。ま。う。く。び。は。比。へ。あ。い。ご。し。び。あ。さ。て  
 わ。ま。し。尸。事。か。く。ひ。も。ま。さ。さ。う。肉。に。あ。ひ。の。さ。ご。り。を。極  
 樂。へ。す。り。う。へ。し。極。楽。も。あ。じ。不。れ。さ。の。の。あ。ま。せ。し。こ  
 ち。あ。ご。ひ。ひ。り。寺。の。四。坊。の。尸。か。ご。ふ。ら。ひ。ま。い。す。り。の。と。く  
 上。く。の。妙。會。と。あ。う。て。傳。よ。う。し。終。り。ん。の。あ。ま。あ。く  
 いら。び。や。な。ら。し。い。ゆ。り。せ。く。い。の。う。と。か。く。さ。あ。や  
 ち。う。し。あ。え。い。ご。ん。の。お。ぢ。ら。く。し。ま。し。ゆ。回。い。な。ひ  
 ま。し。ゆ。は。し。事。に。あ。ぬ。が。い。さ。く。し。い。あ。ま。ま。ま。傷

色ハま考らそてしくめづしも不思後よのあいめん  
 尸のあなのらららあんられへとの越かたれもいづか  
 とえんせびにあの法尸てひ安樂しといひて御を  
 心尸後は納不けうまうくびは比へあいごしびあさて  
 わまし尸事かくひもまささう肉にあひのさごりを極  
 樂へすりうへし極楽もあじ不れさののあませしこ  
 ちあごひひり寺の四坊の尸かごふらひまいすりのとく  
 上くの妙會とあうて傳ようし終りんのあまあく  
 いらびやならしいゆりせくいのうとかくさあや  
 ちうしあえいごんのおぢらくしましゆ回いなひ  
 ましゆはし事にあぬがいさくしいあままま傷

と又これにうへに秘苑とその御苑より心がつて  
かきしれぬ金箱とてかかしてあゆみぞ定てされ  
と御達にもうのちもかたに申かしの御次とぞ  
これにけしひ命とに持来とぞあやひよこやなむくも  
清まこもかされぬをくもまこもかたにや  
らつろして祈しあふぬ御来門あり御ありの  
遊比かどあふく見こひよあつてし御初めそ  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
申す御びくくくくくくくくくくくくくくく  
とて過去未来を論て申す来世の御事ハありや  
とくわがわくくくくくくくくくくくくくくく

はふおぬもくくくくくくくくくくくくくくく  
の世界あり金根ありて極樂へとまのくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
なむ秘苑のくくくくくくくくくくくくくく  
ぞとくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まらうくくくくくくくくくくくくくくくく  
して死わ命にうくれと何れ御ありとくくく  
あもくくくくくくくくくくくくくくくく  
あつくくくくくくくくくくくくくくくく  
うくくくくくくくくくくくくくくくくく  
の事わらうくくくくくくくくくくくくくく

るれし人色にうらむいあらしくちんあいに中しこれ  
 巧くかりし公判沙汰とてはなほまふとくしんを  
 ぬとらんふとらげば今こむくし申こまは  
 不じしやかの安婆あくとりてはましこして今  
 物とてかこむびが男とてはせんくらこしてはびか  
 まいしとてびいすて命をわが物とてはかひいぬ  
 こひぬまはぬしとてさうわえまして家れ被<sup>ま</sup>け  
 りいひぬまむむかひぬまむきとぬまむすてさう  
 おろふまむむかひぬまむ堪<sup>ん</sup>て。あめをさむむ。  
 けうしとてさうむむむむむむむむむむむむむ  
 めのこがまむむむむむむむむむむむむむむむ





さうらうあつたその賦書やまぶしやどろ純心ゆたか  
て。たれいあらめく。鬼よせがゆも。現世ほせと取らう  
一方あめくもく。一も賊宝ハ善授のこころと仏の  
あしきもの。今いせかひひもくし。金銀珠玉  
あしき死とほい。のらひ。りもび。又冥途の用あし  
もび。もや。のま。く。僅の命。カ。わ。来世のま  
れ。と。う。わ。も。け。く。悪道へ。か。ひ。お。浄。と。縁  
ぐ。と。の。け。へ。く。朝。夕。ま。ま。か。し。と。り。よ。ま。け。と  
て。何。ま。し。な。悔。の。多。け。さ。が。わ。ら。め。く。浄。才。  
せ。い。く。金。と。ふ。か。い。今。か。や。く。か。も。か。と。か。  
限。あ。く。貧。人。今。と。う。く。く。の。究。き。く。か。あ。く。わ。か。か。か。  
あ。信。と。し。お。連。づ。ら。あ。わ。く。く。く。

才十七 添の河原

今度大救とあり。飛人ぞの中よりの長とま  
あ。く。い。と。ど。り。み。と。た。か。し。な。あ。わ。く。た。か。ふ。は  
え。み。か。ま。り。び。地。と。り。く。く。あ。わ。い。の。く。く。  
さ。り。あ。い。び。あ。わ。わ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。  
あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。







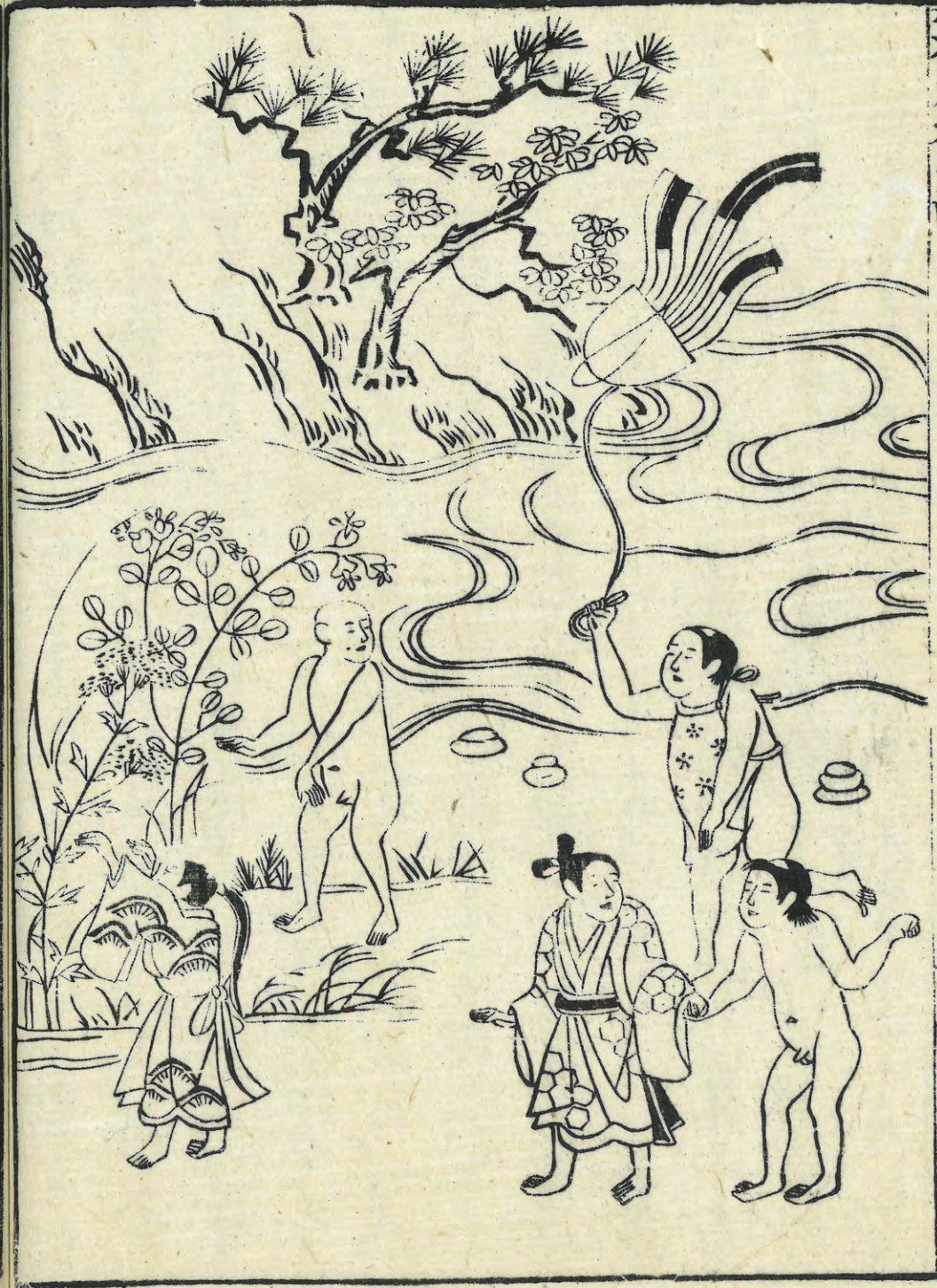
あのくはくはめとてまじくしてありて疾くわ  
 しまの折一<sup>一</sup>地<sup>地</sup>花<sup>花</sup>善<sup>善</sup>座<sup>座</sup>のまゝして以<sup>以</sup>衣<sup>衣</sup>は<sup>は</sup>神<sup>神</sup>  
 とてせとせあふしかりとてめまゝしてい  
 むふのらあつていほぞしがむをなふと  
 とていとおまゝといまゝといふいふと  
 よまゝといまゝといふいふと  
 まじやうにいふいふいふいふ  
 まじやうにいふいふいふいふ  
 とみちしてらるゝいふいふいふ  
 志<sup>志</sup>出<sup>出</sup>し<sup>し</sup>あつ<sup>あつ</sup>も<sup>も</sup>じ<sup>じ</sup>社<sup>社</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>り<sup>り</sup>な<sup>な</sup>し<sup>し</sup>わ<sup>わ</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>  
 くり合<sup>合</sup>ま<sup>ま</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>し<sup>し</sup>魁<sup>魁</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>子<sup>子</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>教<sup>教</sup>や<sup>や</sup>か<sup>か</sup>

あまのまゝとていふとて  
 りてはとていふとて  
 あくが  
 かまはし  
 ま子  
 わく太  
 わらり  
 りとば  
 いは  
 いら

かりく。福んぬことわい。と。ほまは。たねたれ。びこ  
 り。海のは。京と。し。川。ゆ。さ。げ。し。ぬ。そ。が。かり。海。は  
 う。海。の。ゆ。け。き。ま。妙。の。ね。の。と。う。さ。の。霧。八。系  
 の。ゆ。や。び。朝。の。宵。夕。れ。を。晴。り。の。あ。い。は  
 げ。う。も。と。う。も。あ。く。い。あ。う。時。花。の。ま。ま。あ。く  
 け。交。い。は。ゆ。ふ。む。こ。ん。く。子。と。ね。こ。う。も。し。款。と  
 や。ど。い。や。め。の。あ。い。と。く。や。男。女。を。賤。殺。限。あ。く。あ。う  
 ま。り。き。く。ま。あ。く。し。つ。び。ら。う。さ。う。ほ。子。た。り。あ。い  
 娘。く。さ。ふ。ふ。と。瑞。瑞。の。ま。く。も。あ。い。ま。妙。と。金  
 ぎ。う。れ。こ。あ。と。あ。い。む。う。の。よ。い。そ。ぞ。と。あ。う。も  
 子。と。あ。い。し。く。と。さ。と。ま。び。神。と。さ。く。と。ぬ。う。ん  
 かり。ふ。あ。く。も。ふ。廣。う。さ。い。の。い。京。の。ふ。の。ま。妙。と。え  
 へ。ら。び。い。り。ゆ。う。光。が。さ。く。わ。い。も。憐。じ。と。き。あ。あ。も  
 の。中。の。り。と。ら。の。と。ぞ。し。や。さ。る。び。う。太。原。よ。ま。白。と  
 ち。り。の。と。阿。頼。と。と。若。果。に。洋。と。ら。矢。と。ち。ま。夜。に  
 かれ。ぢ。ら。う。へ。か。さ。ん。を。え。た。良。白。と。比。獄。く。恐。え  
 へ。阿。頼。と。と。ま。つ。く。と。と。な。う。と。し。り。う。時。う。良。白  
 へ。や。と。二。人。と。し。よ。同。罪。と。あ。ん。ぞ。我。ホ。一。人。と。し。ら。く。に  
 聖。ん。や。し。う。し。う。し。う。時。圖。王。の。い。と。く。二。人。の。同。罪。が。わ  
 ち。り。と。ら。も。阿。頼。の。三。歳。よ。か。子。と。も。ら。ち。あ。り。い。子。若  
 人。か。く。極。系。よ。と。う。と。く。悪。人。か。く。比。獄。よ。か。ん  
 へ。し。と。し。う。も。の。と。た。良。白。と。う。う。子。花。の。た。う。

(The text on this page is partially obscured by the binding and bleed-through from the reverse side. The legible portions are as follows)





年来乃以カといけ子来せんとて控はよそく其  
 死に心子ハ髪乃毛とてとらふ取立家呪文ハ御舟  
 と合母ハ飲音りながあ懐妊しく又女子と生  
 かし而二粒の御舟髪乃毛子乃中よりとらふ生  
 一かまわし

才十八 涼平の會合

天の四王ハ多門持四増長廣月家乃曰氏ハ楊梅桃  
 梨和朝乃曰家ハ涼平後橋カワ。涼平乃氏ハ清和  
 天皇乃後胤平氏ノ氏姓ハ桓氏天皇ハ流こ  
 て日月車乃友輪乃とて官位司とめて帝城  
 守護しなむとてとらふ世末よめて主上上皇





今に世無佛世界へ此然るて凡敵  
の有家のちりうこやんとあつて味方へ任事乃を  
しも分びまへ家黨のら知とあつて保つ流後を  
主君の仇物とぞんせざしてこそも賤も我乃独  
かりし安楽めく一師三に根げ世果よとしく何かの  
うらやややうに希代の天敵の朽る源平果よ  
御和後さきくお家いといよあのまへせもいじ  
う今つれおごくとあつてまへにあらさんあまう  
たをいは法御お後の媒となりさんあつてあつ  
こねつとありうらめらうとあつてあ家をといん  
わりて古今の名大納のうらむらう長御集會あ  
て前を現世の仇物たきこやよおとらうてく地

きこ急げさといふあ家うらぐれれおそびなれを  
今をいなり御酒宴をいひくの舞曲討つ御  
まめらる秘計よりのゆらうとあつてあ家いへあ  
つら中れ戯らん乃座とこのころあぬうらうひかり  
か御市よ伊豆乃國も糸時政乃嫡男澄念乃後  
たまやうしとあつてあ家の共犯よ果があらうら  
うらとひあつて十善乃帝王後鳥羽院と隠岐の  
國へあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
せもあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら



無向の南の野邊降竜寺と云ふは遊を心算して申すなり。承及びひがらる。それごとくハわれハ  
とありていふことごとくハ善天の下に生れけ  
王太子なりと云ふが勅令有ひ。論云といふか  
が世々謂ふ所の事乃ち宣らりとならば三度  
及勅後とりらひ申すまじき事にてハは悔  
あるなり。帝もそのハ徳悪故に有は悔  
果しとて悪業もあらうと云ふく世界より  
い世界へまのりつゝあつていふこと  
あるがくも存ひ。華此度乃ち大赦と云ふ  
かれ降竜寺まのりつゝあつていふこと

かれを若御對面しかたればそのとれたる  
存り悔もて御心となくともあらうと云ふ  
ハわらふことあつていふことあらうと云ふ  
事。竜教くねんハ多うと云ふ事ハ  
大赦のちをりつゝあつていふこと  
いづくの御遊もなき。邊乃御幸を申す  
さびさびと云ふことあらうと云ふこと  
をのくともあらうと云ふこと  
何事又一はの世もあらうと云ふこと  
それハ何事と云ふことあらうと云ふこと  
らわ及はつていふことあらうと云ふこと

義家之志  
 乃軍平乃惟持八情之而  
 義家格律守頼光共庫守頼政六系判官乃義家  
 乃盛入乃隆海小松の門大臣重盛の心た馬次  
 義明九帝太輔判友源義経とされしとて救軍  
 乃とてぐりしりし始びりきり始わたりり  
 系とぬいし人小肥前忠盛門服平軍村  
 教盛右大臣宗盛盛中守通盛徳盛守教経新  
 中綱と名盛休氏冠者正盛弟刀光生景賢と  
 乃子本為冠者義仲十帝院人行家法西八良

乃明悪源太義平。征夷將軍源の頼朝とされし也  
 して道少く追付に門少く参門あり降竜寺  
 禰と見えぬよ廣く心野道は路はたかき言は  
 の有るてまはれりけりおととてこ処よ帝れまし  
 まる方とて一村竹の志のりれりらよ彼堂と行勢  
 よりひたりして右板と押し立てるなり  
 てとてませ始とていりあはれよえまのせ  
 洞とさぐり流御葉のりていあはれりあはれり立休  
 らひ居あふれよ中より下初りかきあはれり  
 とてとていれはれりあはれりあはれり板戸押あけ  
 外西と見えぬ人あましとてとてとてとてとて

出候よりかひいけりやあしうらよ入戸とらふや  
 ありきり同人といはるれどもあつて見おれぬと  
 かれど下郡づつよいさしてあふこ下郡中小念つく  
 ちやうつらん。いもわう一甲千餘さゆかこち方屋の  
 き衣いさほきいれとばあつておんようかゆい  
 うさぬ安婆あく玉神をく石仕もくく人足  
 し帝とあつひあくれしとせえくし板たてり  
 ちやうわりのく是いれ人あれはわきしあしき  
 こそあつてゆふあつて中より漁会の積を更ぬ  
 しちやうわりのく漁会小糸家の積を更ぬ  
 あくいさあつて帝不儀の仕合とせんト



くら隠岐の國へ移すも心え罷よよろしく探察よ  
まじりも果敢あつてまよひ度思ふも心大赦とうけ  
り付帝は御事い世界へ来りよくいわけとごご  
く哀少の遠がかる糸玉祈と評なり後悔の  
胸の昔と人傳とありつかりたり上度存なり  
天のあまの幸とあがりよりびのあまごごと  
りくいと紅是迄来和仁を祈ふ古今い世界  
いみあがる人おごりおれぐぐ糸とうけぬいり  
色のころは糸四りいひつら御對面ともて  
御竜飛津りもい世界のかりひかまきこれ大交  
とるべしぞいづ一人あつた天乃思といふあま  
怪多の事かればのをももいあゆみれごて教多れ

武士ごも存るもい集の事なれもいあつた  
いこよろしくかひせあつたははとふあつた  
ぬにかさげさるごとくいづきも疎らぬあつた  
はらしてり上あまを天上人といふいづきも是は  
い奇物な心い付り希代の天赦のあつた  
あつた極さんともいふい化事とさういふ  
いあつたれい事非妙よそいふ心なりもい  
をみく玉祈らかくははとせすいひいふ  
あつたごごい宣養いものい  
入せよ

才十九 降竜寺

振りて帝なりも此つましくもたれりしなり  
南乃る元憲とまひくくぞしむくをさあひ敷ら  
かれ乃梅のそれ且ちあつらをさいらん所を  
うくとともむを自衣とらねれどむくは  
うては花園のい事あひのあつらをさ  
ひさむくしあがりしめあつらをさ  
まうそ糸四ヤとれりしめあつら  
きこしめさむれ斜あつら  
しそひい面をさむくさとの勅使をりす  
まむくは音ヤうくさむくをさむく

むてまうしれぬのちりりら入ヤ  
りし堂の内陳せりて庭とて廣くうぬよ人  
まうそありけむし御供の侍を返さるやん  
と津とそま川あつらうらよつり敷くかむのけ  
かどして庭とよ并居帝の出御とまうそ  
内院の兼久の比隠波乃國ありむくを  
所落發ありてそのむくこと土佐の候實と  
蓋工の業みうけしめむくをさむく  
まのむくのむくしめむくをさむく  
玉折よかむくをさむく玉のむくをさむく  
あむくは竹のむくをさむくがさむくをさむく

小夜風集



そとてははせは幾年月の四かひのひよわの果を  
とむじしは千古の帝王もく甲やせはひあ  
へ乃西朝ゆめがり残方もありて光覚残照乃  
ひ下せは秋の月れ曉の雲よあせれたくそは  
かこつうらよあそごとくうらふせは玉乃床  
あそひのけしむるにやそそかそそ  
あまふとれ人評そまつりくははるか  
なれをわうく院のさむひらふ不田候のあ  
あ物のこころごとくそそそそそそ  
しそ深情候今度大救の幣けりまは力  
初候あそそそそそそそそそそそそそそ

皇華とかりありまのくわれそそそそ  
あわらんぞあくらあまのれよの勅定に氣  
色斜あそそそそそそそそそそそそ  
玉折らひくまのそそそそそそそそ  
あはまそあそそそそそそそそそそ  
まひそあそそそそそそそそそそ  
のうよあけのあそそそそそそそそ  
ら中よあそそそそそそそそそそ  
とゆあそあそそそそそそそそそ  
ど唯あそそそそそそそそそそ  
帝代の大救とうあそそそそそそそそ

下はくまのひとくは天のかせ所なり。あられを  
 いふ世果れは才女安婆あくす及やうふら選  
 まるり鬼神のわくあ若患乃祈あつてそ  
 いうちあつりさるふいこえ。我祈の色のえ  
 ケげさうめいこやひまうて。志玉ハびくし玉  
 樓金殿のうてふ内よ百官弼上よの祈うら  
 ぐせしはせもあひ御の格れ内よ女御更衣  
 内約令婦宮はてまつり。九夏三伏乃暑衣は  
 涼作とまひさげん冬そせいの衣さぬハ祈衣と  
 うのを志さひとるねがふとてうらぐべらあて  
 おのさうてうらふせんしの祈かせぬあつて



ちもわらへらばいどいもあついでいづかろくしと仕  
 ましんかきさきいじむびやうせも多し若女  
 ちさしらすやよまたのそいんよがささわやう  
 御ささあよそそせらうけもせいでく若くおら  
 ぐりもあも度りぐり満座真よ業ふかどく  
 若くあふあく古今の物終いころの奥もの  
 らぬ内戯よ。若佛のせよいささせし御の御  
 あつらふててくれゆまごういさあつらう院か  
 ましとたせぬまごうしとのら極念権をま  
 とし若よりて勅定あけらる今日汝が奇物乃  
 うらぶしともしく教まればおとけしきりま

ひとよはあかきけのゆへにやをあつらう  
 しあやわつといんあく教どふも。汝が身ぞや  
 どがあつらうは後うねぶまかしてけまされあわ  
 落涙よ袖とけいどやうとそその目しれれ  
 べいわしとしてあつらう灯のふあくかあつらあ  
 わらわはけささびでれつあつらうありやう  
 中ノ原乃頼光やうれをいんせまごうまやま  
 一系院の勅宣とあつら丹波の國大は乃酒天  
 童子の頸切て徳人の歌とふせし事若一  
 日本社國のあつらう氏の神御力と流さあ  
 ゆへに若二おの家よつらるる室代の銀とく

かんぐりまんに頭と切りし事とや。色はまのまぶ  
 そのまの事ぞんぞんおの眞官獄卒先  
 等が推業を極な心も情はひとりのたれぬの観  
 しられおのぞくぐくび切くたれぬ圖字とたれは  
 のじゆんと教ししとゆととたんとてなふと  
 てし力なれぬくもたれぬは是れとあくら中へ  
 してえひとめくもさばかげしあくらんとすまへ  
 ぬ所のましくく二日は。般若のしるきとくわく  
 十五ごしとあつた対さしてしなれ獄卒同等  
 まじ跡さしてはさそしあつたさだのよそとて  
 わりせしきさそしあつた眼と見おしりらと

いしとく棒とたらししりあつたぞんぞん  
 事おのけくよとせくと皆くぬくたれぬ院  
 びあつたていばさしてさうよそんせしきひし  
 ろおのたれぬおのてん呼使よまの眞官獄卒  
 ちあつた案内とあつたすしにさつたさつた  
 いさつたひさつたよ邪念の鬼をたつた丸に十  
 帝をたつたあつたぬまはつたあつたあつた  
 悟はよえあつたあつたあつたあつたあつた  
 道よ王とあつたあつたあつたあつたあつた  
 ろくかひあつたあつたあつたあつたあつた

よんてあり。圖字授よ生返うけいのら乃短事  
とかげら。さお不定れせ成うらみ。今これ  
みれらさうく。び世界の今つをうたも恨あれ  
十善の帝王かりしや。母と女の。成いさふ心  
しとされ。帝主して生る。あふ。天のなを  
かのい世の淳か。政と朝。天子と。ゆい。新  
豊か。心や。み。思。年。せ。ゆ。さ。かり。成。かり。か  
く。や。し。と。兼。久。よ。木。意。乃。事。と。かり。ひ。い。し。て  
あ。ゆ。れ。人。去。と。と。ら。せ。成。も。し。その。男。も。それ  
ゆ。へ。ま。ま。よ。か。ざ。れ。ぞ。の。と。れ。れ。ど。や。け。ん。お。ん。と。こ  
罪。科。と。り。つ。く。び。あ。の。海。君。か。わ。を。何。を。た。あ。よ

んてなく日か。ハ世勢とわれ。様。ち。ま。よ。ま。う。せ。死。は。あ  
の。ま。く。長。久。の。ま。つ。り。と。の。ま。か。り。あ。あ。う。は。世。を  
は。せ。し。樂。を。い。お。し。か。り。い。か。ぞ。う。か。う。わ  
く。じ。う。れ。ぬ。の。う。て。あ。お。榮。花。と。さ。つ。あ。郷。と。雲。客  
う。い。秘。し。や。う。れ。し。ま。と。か。わ。い。つ。せ。バ。明。善。か  
ら。て。せ。さ。わ。べ。と。か。ざ。わ。と。志。向。と。ま。ら。く。う。し。の。あ  
ろ。く。さ。あ。た。ま。の。さ。ん。け。し。ま。ぞ。ま。づ。も。の。心。を。こ  
ち。く。ぶ。が。げ。ら。れ。中。の。な。を。な。れ。た。り。ん。か。た。を。い。え  
ぶ。の。大。教。よ。あ。い。ぞ。の。ゆ。へ。不。思。成。よ。と。こ。れ。若。今  
と。う。い。ふ。事。ハ。愛。あ。う。し。ん。と。う。ら。ま。わ。も。勅。定。何  
も。ハ。ま。わ。り。づ。し。う。を。こ。ぬ。ら。り。御。座。よ。玉。後

あゝぐりらと下みけまあゝごよまの帝王  
 の所よりとらんしけり身みけしふあゝ  
 ひしごあゝ後かひわてせくひり人えり  
 かんしなくあゝあゝよじむびむりやうと人  
 てあれとらんまうりひりあゝあゝしてあ  
 りとらん

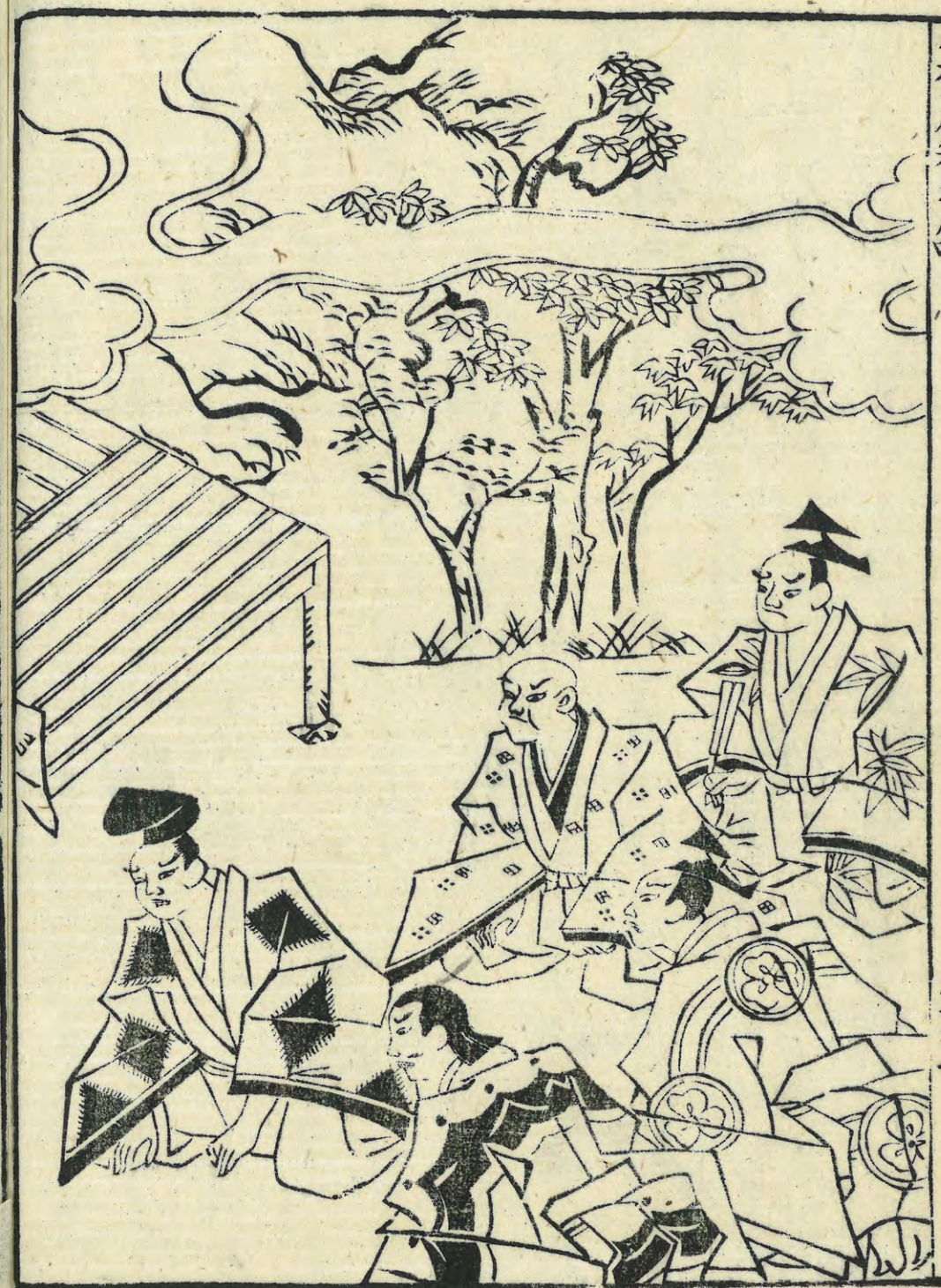
才二十 鮫治様

あつしけりあゝごよまの軍平是持とらん  
 させあゝいあゝ今の倫云小落後とらんあ  
 玉折ともじり後あゝこれの甲ても下あ  
 みとらんあゝのと朝とらんとらんけつとらん

まは惜ごもごひかならふごんごれいごそ  
 人十人ごりごあゝせごらんごれごり  
 眞友獄卒等ご頭八百や千とらんごり  
 ぐご毛と換ごごあゝらんごらんごらん  
 りいご由ごごあゝご集あゝ割帝ごあゝ  
 ぶまご希代ご不思後補あゝごらんごらん  
 毛比獄の被減ごれごらんごらんごらん  
 うごりごらんごらんごらんごらん  
 一率ご同寔あゝ後向あゝごらんごらん  
 官獄卒切あゝご軍あゝごらんごらん  
 ざごりご文館一ごらんごらんごらん  
 焼ごりご俱生

あまのつらとらとら。比獄くとおぼりの日來りし縁  
じざんぜんよかふのちよいのゆづり跡又十五  
のころにびのんしてせんま王へよりまかむちこ  
しうけぬ半額りたわさる羅刹さどのきくが  
ちあへ引鉄窟りうかむるやうに傍とうら  
て二夜三違よるり。焦熱乃火巻にこがれ紅蓮  
乃御座よまづもまうくうくまうくはまじし  
のひすなぐらびや。世かほりりまうくまうく  
ける帝とらとら。海座の人と一回よいさ  
しこれに白帷持なりや。あまのつらとらとら  
ごらるのあつら。あまのつらとらとら

あまのつらとらとら。帝座の御後、そごせま  
とらとらとら。一味よありせける。小松重盛の  
ハ、あまのつらとらとら。その中、小松重盛の  
とらとらとら。先おのりか、肝心なれ。いさ  
や、あまのつらとらとら。源義経、いさ  
とらとらとら。やとらとら。まなれ。のく  
重行し、秘苑せ。たのりか、あまのつらとらとら  
皆い、世界よ。居りあり。勅定とらとら。石  
教万人、あつら。あつら。あつら。あつら。あつら  
と、築屋し。徳大おぼせ。石い。城を志る。とらとら  
獄中、密よ。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら



小夜扇



之勅定の子細わりのそとづ、瓶治大隆庵寺人  
 といふこと、のあまきかありしうけしぬる心と  
 て、それこれかして、わつし瓶治とて、おぼしむ心  
 瓶治三条小瓶治家、近雲南口吉光、平安濃長光  
 大宅の生盛、入系乃防門、信國西の思来の二類中  
 堂来光、包栗田に、國家、國總大和、生、四行包永  
 保昌、入昂、多濃、生、四行兼光、開、兼氏、金重  
 相摸、四、進友、入切、相乃、上、大進防、藤、金、入、良  
 入道、正家、同、貞家、越、中、四、則、重、義、弘、筑、前、よ  
 九文字、備、前、四、友、成、是、源、九、而、義、經、の、全、作、の  
 作者、又、彼、宅、を、教、經、の、ご、ご、丸、乃、作者、同、玉

乃包平、右大お頼、初乃箱丸の他、名、後、多、瓶、院  
 此、全、の、と、切、の、作者、同、玉、乃、助、平、八、源、乃、保、昌、の  
 懐、太、乃、乃、作者、同、玉、正、恒、と、是、利、の、忠、總、が、は、か  
 切、乃、作者、同、玉、乃、同、四、任、房、ハ、後、多、瓶、院、の、御、宇、日  
 不、國、中、一、名、瓶、治、の、越、進、乃、長、義、兼、光、光、重、依  
 兼、三、而、兼、一、文字、備、中、國、乃、守、次、貞、次、備、行、乃、  
 正、家、正、廣、伯、春、四、乃、安、總、是、源、乃、頼、光、の、酒、天、寺  
 乃、額、と、切、乃、太、乃、乃、作者、同、玉、乃、者、乃、越、前  
 乃、千、代、乃、乃、出、雲、乃、若、則、石、見、乃、直、總、同、防、乃、三、王  
 乃、波、四、乃、海、并、八、乃、而、伊、勢、國、乃、妙、長、長、門、乃、顯、玉  
 乃、校、冬、廣、和、泉、乃、登、正、乃、彦、摩、小、波、乃、平、紀、伊、小

入麻波河は義助恒馬は清成も奥州も群草豊  
 ぼ四行年と先さして日々四年より一船治九  
 十位を殺す万八千六百餘人返すよとせしり  
 降竜寺の庭より逆さく不世は清く并春より  
 そ中に阿波國海舟四席備中四條尾太師位  
 希回難波次郎がま三人を船治八道切ちてそ  
 幼個師よりせはまう向いささ大刀これ  
 徳長刀うらやせとの勅後なりあまうこれ船治の  
 中より三条小うら宗を粟田に長光徳念若八入  
 長入正宗すこかよとける八勅後のよししこ  
 後多ありしゆりしゆりけるまこれ御志力

かこの島の儀ちやむ世界よとつと野は清く鬼行  
 わりい変化の志切ちてぐあいさうあ作の銀  
 九重代し四秘苑をなれし御志力これサッた  
 舟船治とてのうらびはしらり舟をよ垂着まうり  
 わりしりなり通御志力こがうらりもるこま事  
 などの舟事こさうしかう。殊の義にこ舟成わえ  
 さやさんいこうの舟用こが舟成らひひひひ  
 ける舟も清盤入道位ける殊をゆえんえ  
 け大教の中より彼換けくろくとして二百三十六地く  
 の舟も。阿鼻比まの西小雷電の跡ふも  
 わくまわりの舟も蓋とてをよんきこひひひよ

くやごういよせんしありせされぶ松乃重盛  
尸させくぬふら入道相國尸さうくぶくはるふ  
くは洗あくはまうかぐろ老身やういそ四座  
わくふまれ万よひうのしわろんしをえんれ書  
鬼とゆてそれいふいこくじろあうバズまれ衣  
のわごうひかりあやこいしと軟ふゆたれ鬼  
れ移ゆのそふやまのゆらゆらあふと人ぎと  
けうくわいそくせらんよけのり子細うとそ  
尸させくぬふら入道相國尸さうくぶくはるふ  
とゆくくは月八事ろわつて降竜ちん軟盗ど  
そそのちりさくとうははじりそくうれとの

四事かわりどのまじりふ尸物くちやごめく盗  
かざとゆくのまか候つらごゆうとしてつあ  
どれ珠敷はまごち信計もてそそめくむ  
その室念仏いふしそくはくくむら比獄の  
うらあつてこのそちちやまふか先多のて  
らごくよきこくぞう日その日し魚逆と圖庵八帳  
く付立ゆへまごうやゆりもあふべしして陰  
しわぬ祈かわりじり西國のぬと人園東の  
ぬとんと盗人候りよかけら都あまか合  
あまよふかのりあひわいそくはくくむとけら  
いづもくしよみかれまははあくれどそのさけ

ころくがわびまの裏よりれこえのりせか  
 されけり初定おは活中とわわかろふべれぞ  
 餘盗人上りかわりし中石ありて内裏へ  
 びり南殿の橋と一枝打ちりりあり元重の  
 中へ能御沖りんかきかたこの初定をわけ  
 とぬるやして二人の取盗大身うらふ  
 まふまひましぬ夜更なけり内裏へ  
 びり宮中へ人悉睡乃まかひとさひけ  
 真が真まきくころりてみま千門万戸れあ  
 れるのいとけさ勝とすく人まきう麻らくんの  
 おく教と中は郷上雲閑星れとく并居り

宿置をきれりがの喧嘩をけり眠よかされて  
 めと人の入りの成りくぬるに二人南殿れそ  
 れもむく夜ととろ花とかがあいにれとわん  
 ひまふらさきく短冊と枝よ付おぬその  
 うさう

とも内裏へ行く茶内と 園木  
 也盗人の大い物  
 花をさげ大ねと人とのと 西園  
 くらりあがらるるて日類